

(様式第1号)

研究No.  
(記載不要)

19-学長-4

## 平成 19 年度配分 研究成果の概要

研究名	日伊喜劇の祭典 狂言とコンメディア・デッラルテ				
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費 2800 千円				
研究者氏名 (代表者)	学 部 名 (研究科名)	学 科 名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	芸術文化	教授	鈴木滉二郎	研究総括、舞台公演 の運営、マネジメント
共同 研究 者	文化政策	国際文化	教授	高田和文	舞台公演の企画、運 営、広報
	文化政策	芸術文化	教授	扇田昭彦	舞台公演に関わる助 言、広報
	文化政策	芸術文化	教授	梅若猶彦	舞台公演に関わる助 言、広報
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:狂言とコンメディア・デッラルテ 国際学会(狂言とコンメディア・デッラルテ国 際フォーラム委員会、イタリア文化会館主催) ボローニャ国際学会			発表日 (発表 予定日)	平成19年9月 28 日  平成20年11月
	3 その他 発表の方法:「文化と芸術」vol.7(本学文 化・芸術研究センター発行、)			発表日 (発表 予定日)	平成 20 年 3 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

研究の目的は以下の通り。

- 1) 日本の伝統芸能・狂言とイタリアの伝統仮面即興劇コンメディア・デッラルテを同時に上演し、その舞台を通して日伊の演劇の様式を比較研究する。
- 2) 舞台上演を本学講堂にて行ない、学生に観劇の機会を提供することで、日伊の演劇文化、比較演劇、国際文化交流などについて学生の理解を深める。
- 3) さらに、舞台上演を一般市民に無料で公開することにより、本学の研究教育活動について地域の人々の理解を深める。
- 4) 本研究事業をイタリア文化会館・イタリア大使館等が主催する大規模なイタリア文化紹介事業「イタリアの春・2007」の催しの1つとして行なうことで、イタリア関係者における本学の認知度を高める。

(研究の実施方法等)

以下の要領で狂言とコンメディア・デッラルテの手法を用いたイタリア喜劇の舞台上演を行なった。

日時 平成 19 年 6 月 21 日 (木) 18 時

場所 静岡文化芸術大学講堂

入場無料

演目は以下の3つである。

- 1) 『濯ぎ川』 西洋中世劇を翻案した狂言。出演：善竹忠重、茂山あきら、善竹忠亮
- 2) 『いたち』 イタリアの喜劇作品 Bilora を翻案した新作狂言。翻案・演出：関根勝、出演：善竹十郎、善竹富太郎、善竹大二郎、ルーカ・モレッティ、サルヴァトーレ・マッラ
- 3) 『Bilora』 『いたち』のもとになったルザンテ作の喜劇をコンメディア・デッラルテの手法を用いて再現した作品。演出：井田邦明、出演：ミラノ・アルセナーレ劇団

(得られた成果等)

今回の事業は、西洋の喜劇を翻案した狂言作品ですでに伝統的な演目として定着している『濯ぎ川』、イタリア喜劇を翻案した新作狂言『いたち』を日本語で上演し、さらにそのもとになったルザンテの喜劇『Bilora』を同時に上演するという、意欲的な試みであった。しかも、『いたち』では日本人の狂言師と狂言を学んだイタリア人俳優が同じ舞台で共演する画期的な舞台となった。さらに、ルザンテの作品が日本で上演されたのもおそらくこれが初めてであった。

このような複雑な演目構成にもかかわらず、狂言もコンメディア・デッラルテも庶民の間から生まれた喜劇の様式であるため、一般の観客にもたいへんわかりやすい舞台であり、いずれもたいへん好評であった。他方、演技の間の取り方やスピードなどにおいて、日伊の演劇様式や喜劇的センスの違いも明らかになった。これらは、本学学生のみならず一般の人々にとっても貴重な観劇体験となったものと思われる。

公演当日は、本学学生と一般の人々約 300 人が参加、本学における公演の様子はNHKテレビのニュース「おはようニッポン」(6月24日放送)でも紹介された。また、「イタリアの春・2007」の催しの1つとして、同じ舞台がその後に名古屋、東京(国立能楽堂)、京都、大阪でも上演された。以上は、本学の知名度を全国的に高めるのに寄与したと思われる。